

還暦おやじの  
新人農業者手帳

平成27年度新規就農者

遊佐宏文



一、温湯循環の取り組みと見えない成果

私が花畔地区で就農するにあたり少し気になる歴史がありました。花畔6号線をはじめ周辺農地で石狩名物の暴風から農作物を守ろうと、父祖の代にポプラを植樹していたことでした。沿道は北大のポプラ並木にも見劣りしないほどのポプラが並んでいて、その一角には石狩湾新港の建設にあたり花畔地区に移転してきた大先輩方の営農に対する意気込みを刻んだ石碑もあります。ところが、私が花川中学校の生徒だった頃から見ていたそのポプラ並木を伐採するというのです。どうやらこの半世紀でポプラが老化して、悪天候で



▲H27.8.18 花畔営農区画整理組合の碑

倒木するおそれがあり、事故発生の回避と道路交通等の安全を図ることが目的で石狩市の伐採事業として予算化されたのです。そして、その懸念は9月の台風21号で現実のものとなりました。ポプラが倒れたのです!!



▲台風21号で倒伏したトウキビ



▶9月5日の台風21号で倒れたポプラ

私の農園ユウサン・ファーム西側のポプラも本事業二年目の平成29年に伐採が完了しました。こうして伐採されたポプラは森林組合で受け取り処分されることになったのですが、その一部を私がもらい受け燃料として活用することにしました。

花畔地区で研修していた頃、予算化される事業の準備段階だったのでしよう、就農地の周辺にポプラの倒木が多数横たわっていたことが私の眼を惹きました。農業者になるからには何とか通年栽培したい、と考えていた私は無料の燃料であるそれら倒木を見て早々とハウスの加温を決めてしまったのです。翌平成28年には大阪堺市まで足を運びさつさと給湯器を買い付けた私を見て、なぜ誰もやっていないことにお金を注ぎ込むのかと、妻は、??大疑問符??を呈

したのでしたが、雪の中でトマトを収穫してみたいという私自身の思いが勝りました。しかし、結果的には妻の常識的な直観が正解でした。お湯を沸かして地温を多少高めた程度ではトマトは冬を越せなかったのです。寒さで先端が枯れ、やがて全体が枯れていきます。それでも1年目の冬には翌春に株の根元から脇芽が生え出すかもしれないとばかり全ての根を残してみたのですが結果は惨敗：サツカーでいえばゴールポストにボールが届くことすらありませんでした。



▲温湯循環の要・大阪まで湯器を買い付けた

どうせ駄目なのにと思いながら私のやることを黙って見守ってくれる妻の視線を背中を感じながらも、あきらめの悪い私は今春は昨年より一か月早い5月からの収穫を目指して種まきに取り組んでみたのですが、地温はともかく先端が寒さで委縮する心配の無くなる4月まで定植を延ばさざるをえず、ひよるひよるの老化苗を定植することになったのです。しかしながらまだ懲りていません。将来は、トマトの木を春まで光を遮断して寝かせてみようと思ひ、現在調査・研究中です。

妻の疑問符をよそに高い買い物をしたこともあり、自分自身納得のいくまでは温湯循環に取り組むつもりですが、全く成果が見えてきません。参考までに、倒木材を給湯器燃料に変えるまでの労力が並大抵ではありませんが、「無料の燃料、、、半端ないって!」今年どこかで聞きますんでしたか。

二、ネガティブ・ケイパビリティ

仏文学者で小説家、現職の精神科医として福岡県中間市で開業しておられる篤木蓬生さんの著書です。副題「答えの出ない事態に耐える力」が二〇一七年に出版されました。その中でネガティブ・ケイパビリティを次のように定義しています。「それは、事実や理由をせっかちに求めず、不確かさや不思議さ、懐疑の中にいられる能力」である。すぐに解決できなくとも、なんとか持ちこたえていける能力。「温湯循環という実に訳のわからない農法」に取り組んでいる私ですが、お迎えが来るまでに何か成果が現れればいかに自分と言いかせ、自分にもネガティブ・ケイパビリティが備わっていますようにと祈る毎日を通じていきます。(了)

(平成三十年九月五日記)

